

東京都・近郊県及び神戸市における有機農産物の店頭調査

峯木真知子*、〇戸塚清子**、井戸明美*、藤井昭子*³、金谷昭子*³

{* 青葉学園短大、**相模女子大高等部、*³神戸女子大}

[目的] 消費者が安全性を求めた食材として、有機栽培（無農薬・減農薬・無化学肥料・減化学肥料）食品が出回り始めている。これらの市場における浸透状況を把握するために調査を行った。

[方法] 消費者意識の高い東京都および近郊県、神戸市における、スーパー、デパート、生協、コンビニエンス・ストアに出向いて、有機農産物の販売状況を調査した。調査期間は平成11年6月～12月である。

[結果] 店頭調査の対象店舗は、東京都および近郊県 96 店、神戸市 28 店の計 124 店であった。スーパー71.0%、生協 12.1%、デパート 4.8%、コンビニエンス・ストア 4.0%、総合食料品店 5.6%であった。有機農産物を取り扱っていた店舗は 66.9%で、特設コーナーを設置してあるのは 25 店舗であった。ほとんど扱っていない店舗は 19.4%で、扱っていない店舗は 11.3%であった。一般農産物の販売量に対する有機農産物の割合は、10%であった店舗が 57.9%と一番多く、20%であった店舗が 17.9%、30%であった店舗が 18.9%、50%であった店舗が 2.1%であった。取り扱い品目で多かったものは、人参、たまねぎ、トマト、ばれいしょ、精白米、ほうれん草、きゅうり、ごぼうであった。